



筑波大学

University of Tsukuba



学術出版の プラットフォーム 「*JIG*」を 日本全国すべての 研究者へ開放

2026 年 7 月 14 日
国立大学法人筑波大学

Press release

筑波大学は、イギリスの大手学術出版社
Taylor & Francis 社と協定を締結し、
同社による本学所属研究者に対する
英語書籍の出版支援と、

共同で運営してきた革新的な
論文プラットフォーム

「*Japan Institutional Gateway (JIG)*」
の対象を、

これまでの本学とAffiliate機関に限定
された運用から、

All Japanese Universities Area
(AJUA) を対象として、

「日本全国すべての大学・研究機関に
所属する研究者」へと拡大することに
合意しました。

国際的な研究力の低下や、
人文学・社会科学分野における国際的な発信の遅れが
日本の大きな課題となる中、

筑波大学と Taylor & Francis 社は

「日本語の研究を、
世界標準のスピードと信頼性で無料公開する」

という独自の仕組みを日本全国へ開放し、
国が進めるオープンサイエンスの動きを加速させます。



社会的背景

現在、日本の大学や研究力は大きなターニングポイントを迎えています。世界の論文シェアにおける日本の順位は下落傾向にあり、研究力の地盤沈下が危惧されていますが、論文出版に当たっては次のような根深いジレンマを抱えてきました。

+ 言語の壁



日本の文化や地域社会に根ざした優れた研究は、日本語で書くからこそ深い表現が可能です。しかし、従来の国際的な論文システムは「英語ファースト」であり、日本語論文は海外の研究者の目に留まりにくいという課題がありました。

+ 費用の壁



優れた研究成果であっても、高額な購読料を支払える一部の大学でしか読めないシステムなどが、知の循環を妨げていました。

こうした背景から、政府も公的資金を使った研究成果を誰もがネットを通じて無料で読めるようにする「オープンアクセス化」の方針を強く打ち出しています。筑波大学が先駆けて2021年から挑戦してきた「JIG」は、まさにこの国を挙げた課題に対する具体的かつ実効性の高い解決策の一つとなります。

「JIG」が学术界にもたらす 3つの革新

JIGは、従来の学術出版プラットフォームの仕組みを転換する次世代のデジタルプラットフォームとして3つの革新な取組を行っています。

01. 「日本語」で書いて、世界規格で届く仕組み

国際的なジャーナルへの掲載は英語であることが大半ですが、JIG は人文学・社会科学分野における日本語での投稿・出版を公式に認めています。

これにより日本語で書かれた日本の歴史や社会を扱った優れた論文であっても、世界的な論文データベース（Scopus など）に収録されるため、海外の研究者が英語の要約を入口にアクセスし引用する流れが生まれます。

02. 出版までのタイムラグを無くす「スピード公開」

従来の論文は、提出してから他の専門家が内容をチェック（査読）し、実際に掲載されるまでに1年近くかかることも珍しくありませんが、JIG では、基本的な形式チェックさえクリアすれば、数日～数週間でまずインターネット上に無料公開（オープンアクセス化）されます。

社会のトレンドや今起きている問題に関する研究を、熱量が冷めないうちに世の中に提示できます。

03. 評価プロセスを可視化する「オープン査読」

これまでの論文の査読はブラックボックスでしたが、JIG では、まず論文を一般公開した上で、世界中の専門家が「実名」でオンライン上に評価やアドバイスを書き込み、オープンにディスカッションを行います。

この透明性の高いプロセスが、生成 AI 時代における「研究の信頼性や不正防止」にも大きく貢献します。

今後の展望

筑波大学の仕組みから 「日本の知の玄関口」へ

今回の日本全国すべての研究者に開放することで、JIGは一部の大学間の試行的な取組から、文字通り「日本全体の学術のゲートウェイ」へと生まれ変わります。

日本中の研究機関や次世代の研究者たちとともに、JIGを通じて日本の優れた知を世界に発信し、世界の学術出版のあり方そのものを変革させていきます。



問い合わせ先

研究推進部研究企画課

E-mail : kenkyo@un.tsukuba.ac.jp

